

令和4年度 第10回 沼津市中心市街地まちづくり戦略会議
《議 事 録》

開催日 : 令和4年10月19日(水)

開催時間: 開会 午後1時00分 閉会 午後2時30分

開催場所: 水道部庁舎3階会議室 + Web

出席者

	氏名	現職等	備考
有識者	岸井 隆幸	一般財団法人 計量計画研究所 代表理事	座長 WEB参加
	森本 章倫	早稲田大学 教授	欠席
	小泉 秀樹	東京大学 教授	
	福井 恒明	法政大学 教授	
市民	佐藤 清治	沼津市自治会連合会(第一) 会長	欠席
	高田 利昭	沼津市自治会連合会(第五東) 副会長	
	土屋 豊	沼津市自治会連合会(第五開北) 会長	欠席
	栗田 奈穂子	沼津市都市計画審議会 委員	
商工事業者	芦川 勝年	沼津市商店街連盟 会長	
	杉山 金芳	沼津商工会議所 専務理事	
	曾根原 容子	沼津商工会議所 女性会 直前会長	
交通事業者	大道 潤	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部 企画開発部 副長	代理出席
	井原 一泰	富士急シティバス株式会社 取締役社長	
	鈴木 智善	平和タクシー株式会社 代表取締役	
行政機関等	大石 剛志	静岡県 沼津警察署 交通官	
	望月 康史	静岡県 交通基盤部 都市局 都市計画課 課長	代理出席
	山本 浩之	静岡県 沼津土木事務所 所長	
	南木 宏和	独立行政法人 都市再生機構 中部支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 担当部長兼室長	
	吉澤 勇一郎	沼津市 副市長	
	関野 勇治	沼津市 まちづくり統括監	
	真野 正実	沼津市 都市計画部 部長	
	平野 明文	沼津市 沼津駅周辺整備部 部長	
	湯川 真由美	沼津市 産業振興部 部長	
	杉山 泰彦	沼津市 建設部 部長	
オブザーバー	角田 陽介	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官	
	大島 常生	国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長	Web参加

<次 第>

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 事務局からの説明
 - (1) OPEN NUMAZU 2022 STREET の実施結果
 - (2) OPEN NUMAZU 2022 ARCADE の実施概要
 - (3) 令和4年度の検討事項
- 4 意見交換
- 5 閉会

<議事概要>

岸井氏 今回欠席されている森本委員より、事前にご意見をいただいているので事務局よりご説明
いただきたい。

事務局 森本委員より、4月に実施した社会実験について3点、今月実施予定の社会実験について1
点、令和6年度実施予定の社会実験について1点、社会実験全体に対して1点のご意見・ご提
案をいただいている。

 はじめに、4月に実施した社会実験についてである。総評として全体的に良かったとのことだ
が、1点目の意見として、自転車通行用の道路の幅員が狭いのではないかとということであ
った。50センチの幅員を確保していたが、ご意見を踏まえて、次回以降は最低でも1メートル
以上の幅員を確保する予定である。2点目が、滞留者数の増加傾向が見られたのは良いことだ
が、提供しているベンチの数も掲載した方が良いのではないかとということであった。3点目
が、社会実験を円滑に進めていくためにも、利用者だけでなく、周辺の事業者の意見や売上の
調査を進めた方が良いのではないかとのことであった。

 次に、今月実施予定の社会実験についてであるが、ヒトの流れを把握できるような人感セン
サーを設置するのも良いのではないかとのことであった。

 また、令和6年度に実施予定の一般車乗降場の東西分散化の社会実験についてであるが、課
題を把握するためにやるのではなく、あらかじめ課題を認識・把握したうえで対策を実験する
のが良いのではないかとのことであった。

 最後に社会実験全体に対してのご意見で、社会実験の結果等の情報の配信に力を入れるこ
とはたいへん良いことであるが、一方的な発信ではなく、SNS等意見をもらえるようなかたち
で行うのが大事であるとのことであった。

栗田氏 前回の社会実験時に、利用者に対してどのような調査を実施したのか。

事務局 アンケート調査を行い、約100人の回答があった。どこから来たのかという質問の回答で

は、8～9割が沼津市内の方であった。また、利用した時の状況等については、食事後が約20件、業務後が約15人、そのほか散歩や通学の途中に来場された等の回答をいただいた。

栗田氏 沼津駅周辺に住んでいる人は気軽に社会実験に参加することができるが、沼津市は広いため、沼津駅から離れた場所に住んでいる人は自動車を利用する必要がある。そのため沼津駅周辺の駐車場の割引券等を配布する等の施策を取ってみてはいかがだろうか。

事務局 今のところ駐車場の活用等の取り組みは予定していない。公共空間の活用の延長線上で、公共交通を活用して来場していただくことや、自動車で沼津駅周辺に通勤されている方に対してクチコミ等によりPRしていきたいと考えている。

福井氏 栗田氏の意見は、車で来る方を含めてフィードバックができていいのかという視点でよいか。

栗田氏 公共交通の本数が少なく移動が困難であり、沼津は車中心のまちであることからご意見させていただいた。

事務局 現地でのアンケート調査の中で来場方法も集計しており、約100人の回答のうち30人ほどが自家用車での来場であり、鉄道は約30人、残りは徒歩、バス等その他ということであった。将来的には公共交通機関と連携しつつまちなかの回遊を目指していきたいと考えているところであるため、そういったご意見があったことも参考にさせていただく。

福井氏 地元からということで商店街としての意見はどうか。

芦川氏 イーラ de 前の社会実験に関しては風の問題等があった。ただ、学生がこのようなスペースがあると来ることがわかった。これは他の年代にもみられた。また、前述にあるように、駐車場や公共交通機関の問題については、商店街エリアでも考えていかなければならない。

今月、社会実験があるが、イベントではなく、日常を作っていきたいと考えている。今回の実験にあたり、30数店を集めてもらったことに商店街として感謝している。どういう方々が来て、コミュニケーションをとりながら一緒にやっていけるのかを見ていきたい。

福井氏 商工会議所としての意見はどうか。

杉山氏 どういう目的で中心市街地に来たのか広く把握するように努めることで、中心市街地に足りないものが見えてくるのではないかと。せつかく車を遮断してヒト中心の空間を作り回遊性を生み出すような試みをしているので、来場者に目的等をしっかり聞き取るのが良いと思う。例えば沼津は港周辺に多くの観光客が来訪しており、その目的の大半は海産物であることから、駅前に市場を作る等の取り組みも良いのではないかと。釧路や高知では、そのような市場を設けることにより、平日は地元民、土日は観光客が利用して賑わっている。そういった誘致や招致をするのが行政の務めであり、同時に行政が実施することで安心して事業者も参加することができる。明確な目的をもって社会実験を実施することが重要であり、せつかくヒト中心のまちを目指しても、人が集まらなければあまり意味を持たない。どうすれば中心市街地に人

が集まるのか、という最終目的をしっかりと持って取り組めば、このまちの特色を活かせると思う。

事務局 今月実施予定の社会実験についても、仲見世商店街との協議の中で、商店街に無いような店を出すことで新たな利用者呼び込めるのではないかと期待しているところである。また9月から10月にかけて電動キックボードにより沼津駅—沼津港およびその周辺を繋ぐような交通についても模索しているところである。

曾根原氏 社会実験ということを知らず、イベントと勘違いされてしまっていることが多いように思われる。告知していることは承知しているが、見ていない人・気づいていない人が多いように思われるので、もう少し告知することを考えてみるのも良いのではないだろうか。

4月のイーラ de 前の社会実験では、実際に沢山の人たちが利用しているのを職場のビルから見ていると、自分も参加したい気持ちになったので、良い取り組みだったと思う。

仲見世商店街での社会実験についても、商店街に無いようなお店を出すことや、雨の影響を受けにくいこともあり、前回よりも人が集まって良い取り組みになるのではないだろうか。ただし、イベントではなく社会実験であることをしっかりと告知しておくことがプラスになるのではないと思う。

事務局 前回の社会実験実施後の戦略会議では、曾根原委員より「人目が気になって座りにくい」というご意見をいただいていたので、今回の社会実験ではそういった気持ちにさせないような取り組みをしていきたい。また、社会実験であることを告知することについては、フライヤーの中でも大きく説明しており、効果が出ることに期待したいところである。とはいえ、告知が不足しているところもあるかと思うので、今後も様々な手法を検討していきたい。

福井氏 自治会としての意見はどうか。

高田氏 沼津駅を中心としたまちづくりを進めようとしている中で、市民の方に集まってもらうようにいきなり呼びかけても、目的がなければなかなか人は集まらない。しかし、人を集めるためには拠点が必要であるため、そういった意味では沼津駅を拠点とすることは意味があると思う。そうした中で、社会実験を単発で行うのではなく、中央公園で実施している週末の沼津のようなかたちで恒例化し、参加してもらうための施策を考えることが、まちの活性化につながると思う。

事務局 沼津市では、市民の方々に今後のまちづくりの具体的な手法を示すことができるよう、令和16年度までの中期のまちづくりシナリオを作成している。その中で拠点を作ることが重要と認識しており、当市では沼津駅周辺、沼津港、ららぽーと周辺、大岡駅周辺を「都市機能を誘導する地域」として人が集うようにしている。また、高田委員からご指摘いただいたとおり、社会実験を繰り返し実施することが重要だと認識しており、実施するだけでなく、PDCA サイクルを意識して、反省点を踏まえて実施していくことを心がけていきたいと考えている。

福井氏 交通事業者としての意見はどうか。

大道氏 前回の社会実験の結果、短期間で多くの利用結果が出たことに驚いている。今月の社会実験では場所が変わるが、アーケード内での開催ということで、思いもよらない関わり方、使われ方の変化が出てくることを期待している。

鉄道事業者として、今後駅とまちがどのように繋がっていくのか、鉄道事業者とまちがどのように関わっていくのかを考えていきたい。そのためにも、社会実験を通して、どのような可能性があるのかを見ていきたい。

福井氏 前回の社会実験の際に、交通事業者から見て何か問題はあったか。

大道氏 特に問題があったとは認識していない。

井原氏 社会実験なので、今後の中心市街地をどうするのかという目的を定めて取り組むことが大事である。

交通事業者としては、前回の社会実験において渋滞や事故もなく安全に終了したことが良かった。

鈴木氏 実施計画について、社会実験前の人口の比較対象の日付が蔓延防止の措置期間で外出を自粛している時期だったので、その状態と比較することが適切だったのか疑問がある。

令和4年度の検討事項として待機スペース削減の場合の運用方法について、令和6年度からの運用と記載があるので、関係する交通事業者とまとめていきたい。

福井氏 交通全般として警察署の意見はどうか。

大石氏 前回の社会実験の間、交通に関する問題は特になかった。

ただ、この実験がイベントとしてやるものなのかまちづくりとしてやるものなのか。イベントならば、実施にあたり防犯について警察とすり合わせをすることが重要となってくる。

福井氏 目的の話が出てきたが、まちづくりとしての目的の話と、社会実験として何を検証して何を改善するのかという目的がある。

事務局 今回の社会実験はイベントではなく、中心市街地の活性化・戦略をつくるための効果検証の意味合いとして実施している。

今月の実験は一部イベント要素があるが、イベントによる集客が目的ではなく、日常的なまちなかの過ごし方を実証するためのものと考えている。

福井氏 社会実験では、まちなかに人の滞留できる場を設けるとどうなるのかということを検証することを目的とできればよい。人の数で成功や失敗と判断しない方がよい。

小泉氏 社会実験によって課題が判明することが重要である。公共空間が創出されただけで人が来るわけではなく、何がプラスアルファされると賑わいが生まれるのか検証してほしい。

大きな方向性として、中心市街地のまちづくり戦略があり、それに基づいた社会実験があると認識しているが、次回の実験ではどのような仮説を立て、そこに何の課題を見出したいのか。中心市街地まちづくり戦略の何を担う実験で、どのステップなのかを示すことが重要である。

また、中央公園でもイベントをしており、沼津港は重要な地域資源として、これまでも中心市街地まちづくり戦略の中でも議論されてきたが、現在の交通状況では、さんさん通りに今後改善の余地があると感じている。そのようなことについても、今回の社会実験がどのような役割を担うのか説明してもらえれば、我々もその次の段階の議論ができる。

事務局 前回の社会実験は、場所を定めて行う点での取り組みであり、今月の実験はそれを線にして、沼津駅と中央公園までの人の流れ、回遊性を確保するために実施している。それを繋ぐための役目を担うのが仲見世商店街とさんさん通りになると考えている。

小泉氏 ここまでどうやって来るかという論点にした場合、公共交通を強化するのか、回遊性を高めるなら、中央公園や沼津港までの移動を動かすような具体的な取り組みをするなども考えた方がよい。

事務局 当市では地域公共交通計画を定めており、沼津駅と沼津港の軸の強化を掲げている。これまで、デジタルサイネージの設置やバス乗り場の整理を実施してきた。また、電動キックボードの社会実験やEVバスの運行等、新たな交通手段についても現在模索している。それらによって回遊性の向上に取り組んでいきたい。また、既存の路線の見直しについてもバス事業者と協議していきたい。

小泉氏 取り組みは理解できた。これらを組み合わせていくことで次のステップへ進めると思う。

1点要望として、沼津市内の事業者には社会実験に興味を示している方もいるが関わっていない。そのような新たな事業者に協力してもらえるように促すと面白いと思う。

福井氏 全体を通して、国土交通省としての意見はどうか。

角田氏 社会実験を行うと公の機関の視点からは想定外の使われ方がされる。地域の方々が変化を体験できると相乗効果が得られる。

今月の実験について、道路上のことにように受け止められがちだが、出店している事業者が関わっていくような仕掛けを行うことが大事である。

岸井氏 色々な場所で社会実験をやってみると、多くの場所で子連れの方がみられるようになる。今までのまちなかに子どもが安心して来られる場所や視点が足りなかったのかもしれない。社会実験によって、若い母親世代が子連れで参加しているとまちが明るく見える。沼津のこの取り組みが広がっていくことを期待している。

以上